

最後になりましたが、今回の開催にあたりご協力いただいた方々に感謝を申し上げ、開催の報告とさせていただきます。

(文責：国立循環器病センター副看護部長 西本京子)

## 第4回岡山支部学術集会

学術集会会長：岡山赤十字病院院長 近藤捷嘉



会場風景

2009年2月21日(土)、岡山赤十字病院センター棟4階で近藤院長を会長として、日本医療マネジメント学会第4回岡山支部学術集会が開催されました。

メインテーマは、昨今の医療情勢を踏まえて「救急

医療と地域連携」としました。特別講演は、岡山県岡山保健所長の二宮忠矢氏に、「救急医療体制に必要なこと」と題してお話し頂きました。全国の救急業務の実情や岡山県の現状を踏まえ、救急医療体制の整備推進や地域医療連携の取組みなどに問題提起がなされました。

またシンポジウムは「小児救急と地域連携」と特定し、小倉医療センター、岡山医療センター、当院小児科の各医師から、小児科領域での救急医療の問題点や各病院での取り組みについて報告がありました。それを受けて兵庫県柏原病院の小児科を守る会代表 丹生裕子氏が、「住民側ができること」について講演されましたが、崩壊しかけた地域の小児医療現場で、母親たちが自らすすんで小児科医師を守ろうと立ちあがった住民運動には全員が感銘を受けました。

その他、一般演題16題、ポスター発表15題、クリティカルパス展示21題と多数の発表が行なわれ、さまざまな職種から250名以上の参加者で大盛況でした。

なお次回は川崎病院の担当で、今年の秋に開催予定です。皆さん奮って参加ください。

(文責：岡山赤十字病院 副院長 忠田正樹)

## 第9回福岡支部学術集会

当番世話人：国立病院機構九州がんセンター院長 岡村 健



会場風景

日本医療マネジメント学会第9回福岡支部学術集会を2009年2月21日(土)、福岡ソフトリサーチパークSRPホールで開催しましたので報告致します。

がん診療連携拠点病院の整備が進む中、今後は地域連携クリティカルパスが重要であるとのことで、本学術集会のテーマは「病む人を地域で支えよう」としました。

特別講演を「がんの地域連携クリティカルパス」の厚労

省科学研究班代表者、四国がんセンター 谷水正人先生にお願いし、シンポジウムは地域連携クリティカルパス実用化の課題として、がん、大腿骨頸部骨折、脳卒中について専門分野の5名の先生方に発表と討論を活発に行っていました。一般演題(19題)も熱心な討議が行われ、クリティカルパス展示(13題)では、国立病院機構福岡東医療センター2階西病棟の大腸癌化学療法クリティカルパス、医療法人白十字病院ICUのアルテプララゼ静注療法、北九州医療センターの乳がん術後ホルモン療法連携クリティカルパスが優秀賞を獲得されました。参加者は134名とまずまずで、特別講演、シンポジウム、一般演題の討論も活発で内容も充実しており、内容的には成功であったと考えています。ご発表ならびにご参加いただきました皆様に多大なる感謝を申し上げます。

## 第9回長崎支部学術集会

世話人：健康保険諫早総合病院病院長 君野孝二



会場風景

2009年2月28日(土)に諫早文化会館にて約300名の参加のもと長崎支部学術集会を開催致しました。今回は6月12・13日に学術総会が長崎で開催されることもあり、長崎支部支部長の向原茂明(長崎

県医療政策課参事官)先生により総会の案内及び進捗状況などが説明されました。

今回の支部学術集会のテーマは、病院を取り巻く環境が如何に厳しい状況であっても、私たち医療を提供する側は、より良い医療の提供を目指し努力しているのが現状であり、より良い医療の提供のキーワードの一つがコミュニケーションではないかと考え、「グッドコミュニケーションより良い医療の提供を目指して」と致しました。

このテーマで演題募集を行いましたところ、23題の口演と20題のクリティカルパス展示発表を頂きました。

教育講演は、自治医科大学メディカルシュミレーションセンターの河野龍太郎先生に「ヒューマンファクター工学に基づくヒューマンエラー低減の具体的対策」ということで、ヒトの有する特性・何故誤りが起きるのか、そしてヒューマンエラーの低減策まで詳しく興味ある講演を拝聴することが出来ました。特別講演としては、香川労災病院の藤本俊一郎先生に「脳卒中地域連携クリティカルパス運用での課題と改善」ということで、「地域連携クリティカルパス」の横と縦の広がり、ここまで進化出来るといった運用をご講演頂きました。

一般演題、講演とも活発な討論が展開され、実り多き学術集会だったと推察致しました。参加頂きました皆様、ご協力頂いた方々に深く感謝を申し上げ、開催報告とさせていただきます。